

製品安全データシート

スルファミン酸

作成 : 2007/3/20
改訂 : 2024/3/19

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称	スルファミン酸 (Sulfamic acid)
会社名	PT. TIMURAYA TUNGGAL
住所	Perkantoran Permata Senayan D-35, Jl. Tentara Pelajar, Jakarta-12210, Indonesia
電話番号	+62-21-5794-0809
販売代理店	サンケミカル株式会社
住所	東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
電話番号	03-3661-6681
FAX	03-3661-7055
メールアドレス	yano@sun-chemical.co.jp
HP	http://www.sun-chemical.co.jp/

推奨用途及び使用上の注意

サッカリン原料、難燃剤原料、スケール除垢剤、酸洗浄剤、ニトリル剥離剤、メッキ浴pH調整剤
サイクラミン酸ナトリウム、アノード酸化被膜(陽極酸化被膜)、金属電気メッキ

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類

EC No 1272/2008規制での区分

物理化学的危険性: 分類できない

健康に対する有害性:

皮膚腐食性・刺激性	区分2	H315
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分2	H319

環境に対する有害性:

水生環境有害性 長期(慢性)	区分3	H412
----------------	-----	------

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分らない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素



● 絵表示又はシンボル

● 注意喚起語

警告

● 危険有害性情報

H315 皮膚に刺激を引き起こす
H319 眼に深刻な刺激を引き起こす
H412 水生生物に長期間にわたって有害

● 注意書き

【安全対策】
接触、吸入、嚥下をしないこと
特に皮膚、眼との接触は避ける
取扱い後よく手を洗う

【応急措置】

吸入した場合	吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 吸入した場合、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

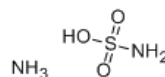
容器を密閉し、換気の良い涼しい所で保管すること

【廃棄】

法令条例に従い廃棄処分すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	工業純品
化学名又は一般名	スルファミン酸
慣用名・別名	スルファミド酸
化学物質を特定できる一般的な番号	
CAS番号	5329-14-6
成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)	≥99%
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	1-402
GHS分類に寄与する成分	
モル重量	97.09g/mol



▲ 項目4 応急処置

吸入した場合	吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 吸入した場合、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

刺激、咳、呼吸困難

応急処置をする者の保護

データ無し

医師に対する特別な注意事項

データ無し

毒劇物の場合、解毒剤

非該当

項目5 火災時の措置
職場のあんぜんサイトから引用

消火剤 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤 棒状放水

火災時の措置に関する
特有の危険有害性 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び毒性の煙霧を発生するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物を含む有毒で腐食性のヒュームを生じる。
この物質の水溶液は強酸であり、塩基と激しく反応し、腐食性を示す。
塩素、発煙硝酸と激しく反応して、爆発の危険をもたらす。水と徐々に反応し、硫酸水素アンモニウムを生成する。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
保護手袋
安全グラス
保護具
熱や火災にさらされている場合、呼吸機器を身に着けること。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 手袋、眼鏡、マスクは必ず着用すること
粉塵の発生を抑制、粉塵を吸引しないこと
十分な換気を行い、物質への接触を避け危険区域から遠ざかる

環境に対する注意事項 下水、河川等に放出してはならない。密閉容器にて回収
回収物、汚染された水等は公認の廃棄物処理施設で処理する

封じ込め及び浄化の方法及び機材 排水口にかバーをし、環境への漏出を防ぐ
漏出物は回収し、汚染された場所を清掃する
法令に従い、処理を行う

二次災害の防止策

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策
(局所排気、全体換気) 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
保護具を着用する。
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項 接触、吸入、嚥下をしないこと
特に皮膚、眼との接触は避ける
取扱い後よく手を洗う

接触回避 「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、梁を不燃材とする
保管場所は屋根を不燃材とし、天井を設けない
床は適度な斜度を設け、枘を設置する

保管

安全な保管条件 容器を密閉し、換気の良い涼しい所で保管すること

近づけてはいけないもの 酸化剤、強塩基、亜硝酸、塩素化合物と隣接して保管させない
水をかけない

安全な保管保管包装材料 元の容器

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005 年版)	未設定
ACGIH(2005 年)	未設定

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器の使用
空気中の濃度を暴露限界以下に保つため珪気用の換気を行うこと
作業場の近くに洗眼器と安全シャワーを設置すること

保護具

呼吸用保護具

耐薬品用のマスク着用。大暴露時は呼吸器 保護具着用のこと

手の保護具

ゴムまたは樹脂製保護手袋着用のこと

眼の保護具

完全覆ゴーグルを着用のこと

皮膚及び身体の保護具

保護衣、長靴着用のこと
推奨 ニトリルゴム製 厚さ0.11mm以上 耐久(破過)時間 480分

特別な注意事項

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状态	個体
色	無色～白色
臭い	無し
融点・凝固点	205℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データ無し
可燃性	無し
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	データ無し
自然発火点	データ無し
分解温度	209℃
pH	1.18(1%soln.25℃)
動粘性率	データ無し
溶解度	213g/L at 20℃
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	データ無し
蒸気圧	データ無し
密度及び/又は相対密度	2.13 g/cm ³ at 20℃
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	データ無し
その他のデータ	
分子量	97.09
蒸気密度	3.35

● 項目10 安定性及び反応性

反応性

法規に従った保管および取扱いにおいては安定と考えられる

化学的安定性

通常の保管状態では安定である。水溶液は酸性で、徐々に加水分解して硫酸水素アンモ

危険有害反応可能性

重合なし

避けるべき条件
(静電放電、衝撃、振動など)

高温、粉じん発生、着火源、相反材料

混触危険物質

ハロゲン、塩基、酸化剤、ニトリル、硝酸、金属、水、強酸化剤、硝酸、塩素、塩基と接触すると危険、有害のガスや煙霧を発生する

危険有害な分解生成物
その他

二酸化硫黄、窒素酸化物

★ 項目11 有害情報
オリジナルSDSより引用

急性毒性
経口 LD50 ラット >200 mg/kg OECD TG401, GLP compliance, 1984
経皮 LD50 ラット >2000 mg/kg OECD TG402, GLP compliance, 2010

反復投与毒性
経口 NOAEL ラット 10,000 ppm OECD TG 408, 2000
吸入 データ無し
経皮 データ無し

皮膚腐食性/皮膚刺激性
皮膚刺激あり、強い刺激がある。(Fiche Toxicologique No.209.I.N.R.S. Paris, 2000).

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
眼刺激がある。ラビット、わずかに刺激がある。(EPA OPPTS 870.2400, non-GLP, 1974).

呼吸器感作性又は皮膚感作性
データ無し

生殖細胞変異原性
哺乳類の遺伝子試験で、変異性はない。(OECD TG 476, GLP, 2010, Chinese hamster Ovary (CHO)).

発がん性
データなし

生殖毒性
データ無し

特定標的臓器毒性、単回曝露
データ無し

特定標的臓器毒性、反復曝露
データ無し

誤嚥有害性
データ無し

その他

項目12 環境毒性情報
生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	淡水/塩水	値の決定
急性毒性 魚	LC50	OECD TG203,1981	70.3 mg/L	96h	ファットヘッド ミノー			
急性毒性 無脊椎動物	EC50	OECD TG202,2010	71.6 mg/L	24h	大ミジンコ			
急性毒性 藻又は他の 水生植物	EC50	OECD TG201,2010	48 mg/L	48h	藻			
急性毒性 藻又は他の 水生植物	EC50	OECD TG201,2010	>200 mg/L	3h	微生物			
長期毒性 魚								
長期毒性 無脊椎動物	NOEC							
長期毒性 藻、	NOEC							
	EC50	OECD TG201,2010	48 mg/L	72h				
水生微生物 に対する毒	IC50							
	IC50							

暴露パターン

PNECs

淡水 0.048 mg/L
海水 0.0048 mg/L
下水処理 2 mg/L
淡水沈殿物 0.0173 mg/L dwt
海水沈殿物 0.00173 mg/L dwt
土壌 0.00638 mg/L dwt

残留性・分解性

Half-life (DT50)(OECD TG 111, 1973):

t1/2 (pH 1.14): > 1000 - < 10000 h at 50 ° C; Rate constants for hydrolysis = 5.81 E -4)
t1/2 (pH 1.8): > 1000 - < 10000 h at 50 ° C; Rate constants for hydrolysis = 1.28 E -4)
t1/2 (pH 2.5): > 10000 - < 100000 h at 50 ° C; Rate constants for hydrolysis = 4.58 E -5)
t1/2 (pH 1.3): > 100 - < 1000 h at 60 ° C; Rate constants for hydrolysis = 1.86 E -3)
t1/2 (pH 1.94): > 100 - < 1000 h at 60 ° C; Rate constants for hydrolysis = 5.46 E -4)
t1/2 (pH 2.2): > 1000 - < 10000 h at 60 ° C; Rate constants for hydrolysis = 3.02 E -4)
t1/2 (pH 1.44): > 100 - < 1000 h at 70 ° C; Rate constants for hydrolysis = 3.5 E -3)
t1/2 (pH 1.98): > 100 - < 1000 h at 70 ° C; Rate constants for hydrolysis = 1.4 E -3)
t1/2 (pH 2.5): > 1000 - < 10000 h at 70 ° C; Rate constants for hydrolysis = 4.18 E -4)
t1/2 (pH 1.05): ca. 100 h at 70 ° C; Rate constants for hydrolysis = 7.67 E -3)

スルファミン酸は、水中で、pH 4、7、9で安定する。(25°C時)

半減には1年以上かかる。

スルファミン酸は、無機物質で、生分解性基準には当てはまらない。

生態蓄積性

適合しない。スルファミン酸は水溶性の無機物質である。

生分解の可能性がない重金属を多量に含んでいない。

土壌中の移動性

適合しない

オゾン層への有害性

データ無し

他の有害影響

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

法令条例に従い廃棄処分すること。

項目14 輸送上の注意

国際規制 国連番号 品名(国連輸送名)	2963 SULPHAMIC ACID
国連分類 (輸送における危険有害性クラス)	8 CORROSIVE
ICAO/IATA	PCA860、Y845、CAO864
容器等級 海洋汚染物質 (該当・非該当)	Ⅲ 非該当
MARPOL73/78附属書Ⅱ及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)	非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	
国内規制がある場合の規制情報	
その他 応急措置指針番号	154

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法	非該当
安衛法	通知表示対象物質 2026年4月以降 スルファミン酸が該当。
毒劇法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
消防法	非該当
化審法	
船舶安全法	腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)正8容器等級Ⅲ
航空法	腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)Q等級Ⅲ
外為法	キャッチオール規制
港則法	危険物・腐食性物質(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二ロ)

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS 2016年版
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
職場のあんぜんサイト
2016年版 16716の化学商品

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実施を対象としたものです。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くて良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
2019年改正JIS Z7252/Z7253			(但し、ラベルに全て載せる必要はない)